

はじめに

人口減少の進展による国内市場の縮小や ICT の飛躍的な進化による技術革新、製品・サービスを生み出す労働力人口の減少など、本県産業を取り巻く環境は大きく変化し続けています。

こうした変化に対応するため、企業等に期待される創意と工夫に満ちた自発的な取り組みの参考となるよう、新たな産業振興の羅針盤として「元気やまなし産業ビジョン」を策定いたします。

本県を取り巻く環境の変化

本県を取り巻く環境の主な変化としては、以下の内容があります。

第4次産業革命技術の進展

- AIやロボット技術の応用で産業構造や就業構造が劇的に変わります。

リニア中央新幹線・中部横断自動車道などのインフラ整備

- 短時間で結ばれる圏域が拡大され、新たな企業立地や市場開拓が期待されます。

企業等の人材不足と事業継承問題

- 少子高齢化による産業人材不足や中小企業経営者の高齢化が懸念されます。

グローバル化の進展

- 新興国参入やTPPなどのボーダーレス化の進展による市場競争の激化が見込まれます。

外国人観光客の増加

- 東京オリンピック・パラリンピックなど、増加する訪日外国人への対応が必要です。



山梨県の事業環境の「強み」と「弱み」

これからの産業振興においては、本県の事業環境の「強み」を最大限伸ばして活用し、伸び代の大きい「弱み」を克服していく視点が求められています。

そこで、山梨県に存在する「強み」と「弱み」について、次のとおり整理します。

本県の事業環境の「強み」	本県の事業環境の「弱み」
①東京圏へのアクセスの良さ	①少子高齢化による人口減少
②自然災害の被害の少なさ	②気象変動の影響
③機械電子産業の集積	③グローバル化の進展
④再生可能エネルギーへの取り組み	④東京圏への転出による産業人材の不足
⑤情報通信基盤（山梨情報ハイウェイ）の運用	⑤中小企業が 99.9%を占める企業規模
⑥全国有数の果樹栽培や FSC 認証林をはじめとする農林水産業	⑥機械電子産業への産業構造の偏り
⑦ワインやジュエリー、織物といった伝統的な地場産業	⑦海外への物流アクセス性の低さ
⑧富士山に代表される豊富な観光資源	⑧地形からくる開発可能エリアの制限
⑨待機児童ゼロや健康寿命日本一など暮らしやすい生活環境	⑨地域ブランド調査におけるブランド認知度の低さ

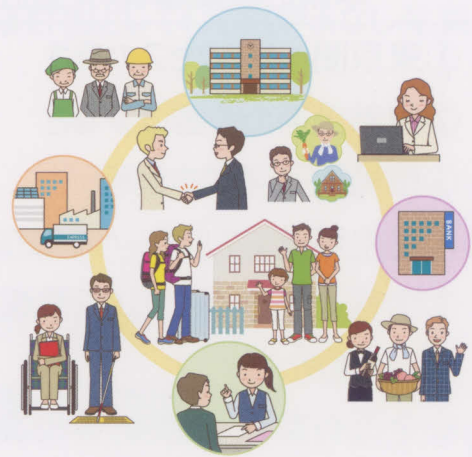


「ヒト・モノ・情報のクロスポイント」となる優位性を活かした産業振興

本県は、東海道と東山道の連結点に位置し、古来より、行政・交通上の「交い（かい）」に位置づけられてきましたが、リニア中央新幹線の開業や中部横断自動車道の開通により、「ヒト・モノ・情報のクロスポイント（交差点）」としての優位性がさらに高まることから、その優位性を積極的に活かした産業振興を目指すこととします。

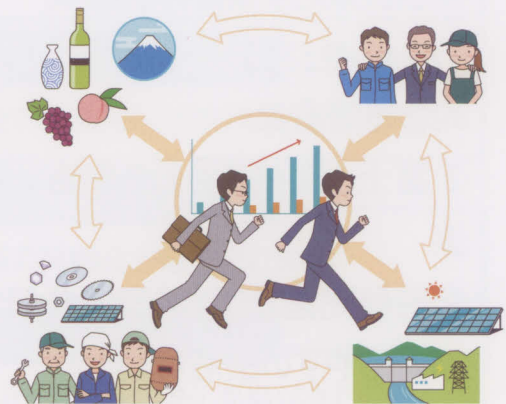
①「ヒト」のクロスポイント

豊富な地域資源や、リニア中央新幹線の開通などによるアクセス利便性の向上などを活かし、本県を訪れるビジネスマンや観光客、県民や企業など、すべての「ヒト」が交流・対流する機会を増やし、そこから生まれる付加価値に着目することで、躍動し続ける産業の振興を目指します。



②「モノ」のクロスポイント

原材料や製品などの物的交流、技術者や取引先などの人的交流のほか、これまで培ってきた高い技術を中心に、自然環境や再生可能エネルギー、歴史・文化、生活習慣など、あらゆる「モノ」の交流・対流により、多様化・個別化し続ける消費者ニーズを満たす、高い付加価値を生み出す産業の振興を目指します。



③「情報」のクロスポイント

「ヒト・モノ」の動きに伴った情報以外にも、ICTの活用による、情報の地域間格差の解消や、発信者と受信者の双方向的なやり取りなど、必要な時に必要な相手と必要な情報が共有されることで、事業活動が最適化される産業の振興を目指します。



「ヒト・モノ・情報のクロスポイント」となる優位性を活かした産業振興における共通理念

「ヒト・モノ・情報のクロスポイント」となる優位性を活かした産業とは、「ダイバーシティ（多様性）を念頭に置きつつ、既存の企業規模、産業分野などの垣根を越え、すべての活動主体（プレーヤー）が連携して生み出すイノベーションによって、新製品・新サービスの開発や国内外での新たな市場の開拓など、ダイナミックに事業活動が展開される産業」です。

そのためには、連携（融合）が非常に効果的な手段であるため、本県産業振興の共通理念として、「連携」を位置付けることとします。

山梨県経済を好循環させる3つのエンジン

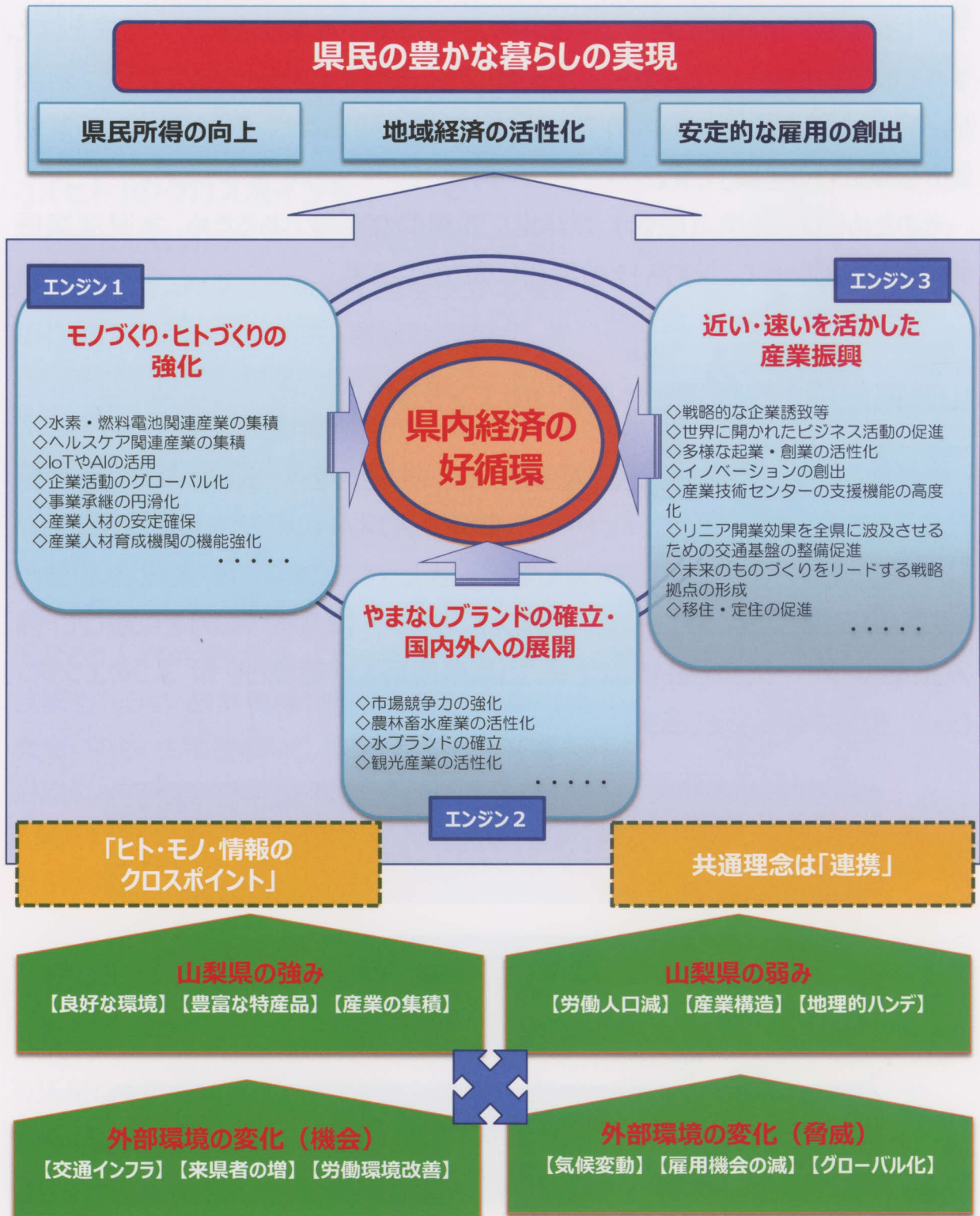
これまで本県で推進されてきた産業振興の取り組みをベースに、本県の産業振興の3つの方向性について、「ヒト・モノ・情報のクロスポイント」となる優位性を活かし、「連携」をキーワードとして取り組んでいくに当たっての、本県の事業環境の「強み」を最大限発揮させるために、また、産業発展のブレーキとなる「弱み」を克服して「強み」に転換していくために必要なことを、山梨県経済を好循環させる「3つのエンジン」として、位置づけることとします。

エンジン① モノづくり・ヒトづくりの強化

エンジン② やまなしブランドの確立・国内外への展開

エンジン③ 近い・速いを活かした産業振興

【県内経済の好循環を通じた豊かな暮らしの実現（目指すべき方向のイメージ）】



エンジン① モノづくり・ヒトづくりの強化



〈連携による今後の取り組み〉

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| (1) 水素・燃料電池関連産業の集積 | (9) 事業承継の円滑化 |
| (2) 医療機器関連産業の集積 | (10) 産業人材の安定確保 |
| (3) ヘルスケア関連産業の集積 | (11) 外国人材の活用 |
| (4) 地域エネルギー供給力の充実 | (12) 技術・技能の伝承、担い手の確保・育成 |
| (5) IoT や AI の活用 | (13) 技術・技能向上とスムーズな労働移動 |
| (6) 生産性や技術力の向上 | (14) 産業人材育成機関の機能強化 |
| (7) 企業活動のグローバル化 | (15) 県民総活躍社会の実現 |
| (8) 知的創造サイクルの確立 | |

事例紹介

エンジン①-(5)の事例「センシング・ネットワーク装置の活用」

(奥野田葡萄酒醸造(株)×富士通(株))

奥野田ワイナリーのぶどう畑では、2011年より検証を始め、富士通で開発したセンサー機器と無線ネットワークを導入。ICTシステムでぶどう育成に関わる様々なデータを「見える化」することにより、畑の状態を的確に把握し、病害や害虫の発生を予測することで農薬の散布量を抑えるなど、自然本来のチカラによる健全なぶどう育成の一端を担うようになり、生み出されるワインの品質向上にも貢献しています。

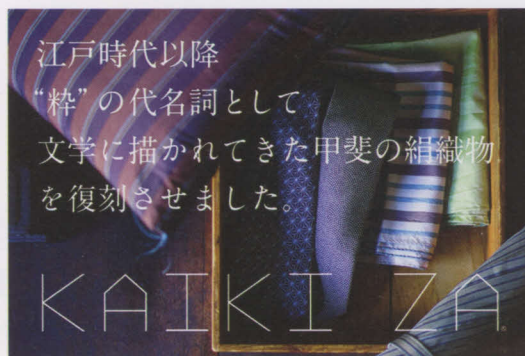
(出典：株式会社富士通マーケティング『富士通GP2020ワインファーム』ぶどう収穫レポートより)



エンジン②-(2)の事例「伝統技術『甲斐絹』復刻」

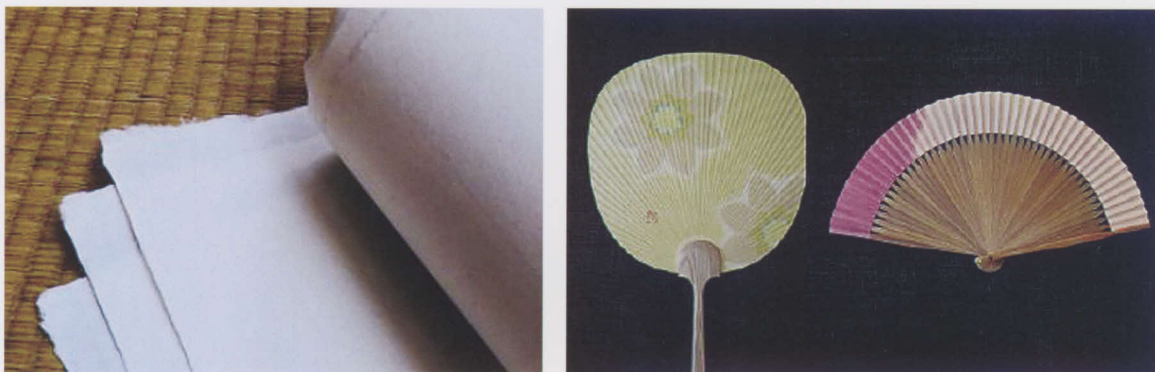
(株式会社甲斐絹座、産業技術センター)

姿を消してしまった県産絹織物「甲斐絹」を、専門分野が異なる職人たちが技術と経験を持ち寄り、最新機織の技術を組み合わせることで現代に復刻させ、構成会社と共にミラノウカ(イタリアで年2回開催される世界最高峰のテキスタイル素材展示会)へ出展するとともに、生地サンプルをトレンドブックとして作成し、有力なデザイナーにアピールするなど、世界のデザインの情報発信の中心である欧州で販路開拓と産地ブランドの確立のための取り組みが進められています。



エンジン②-(7)の事例「和紙や団扇・扇子を中心とした本格的伝統文化体験と関連商品の開発・販売」(富士川流域クラフトツーリズム実行委員会、山梨県、市川三郷町、富士川町、身延町)

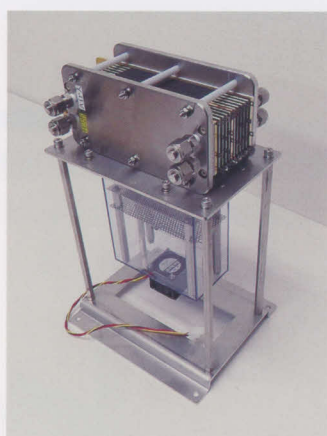
峡南地域の産業資源である和紙（市川和紙、西嶋和紙）は、近接地域でありながら、市川和紙は機械漉き製造会社、西嶋和紙は手漉き製造会社が多く、それぞれ特徴のある和紙を生産しています。団扇・扇子は、国産の手漉き和紙や骨にこだわって全国の産地の様々な形状のものを制作していることが特徴となっており、この地域に根付く伝統産業として、古くから盛んです。



2018（平成 30）年 6 月に地域産業資源活用事業計画の認定を受けたこの事業では、和紙（市川和紙、西嶋和紙）、団扇・扇子の特徴を活かし、これらの伝統工芸やクラフトに着目し、伝統工芸に携わる事業者等が連携する中、国内外の日本の伝統文化に関心の高い本物志向のプロや伝統工芸に興味のあるアマチュア、さらに観光客等もターゲットとして、本格的な文化体験を提供することで、地域経済の活性化を図ることとしています。

エンジン③-(7)の事例「オープン・イノベーションによる製品開発」

(やまなし水素・燃料電池ネットワーク協議会)



固体高分子型燃料電池スタック

山梨大学の燃料電池要素技術をもとに、県内の複数の企業がそれぞれの強みを生かして構成材を作製し、組み立てることにより、ポータブル用、緊急用小型バックアップ用電源（発電機）として有用な小型の固体高分子型燃料電池スタックを製作しました。

2017（平成 29）年 7 月には関連のプロジェクトが文部科学省の地域イノベーション・エコシステム形成プログラムに採択され、自動車産業への応用等、社会実装を加速する中でオープン・イノベーションを進めています。

元気やまなし産業ビジョン

【ダイジェスト版】

策定 平成 30 年 8 月

発行 平成 30 年 10 月

編集・発行 山梨県産業労働部

〒400-8501 甲府市丸の内一丁目 6-1

TEL 055-223-1532

FAX 055-223-1534

